

令和元年度 北海道小学校長会 地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：函館地区
 - 2 事例報告学校名：函館市立深堀小学校
 - 3 報告者職・氏名：校長 山本良子
 - 4 キーワード：地域とともにある学校
-

1 はじめに

本校は、函館市東部の住宅化が進み、児童が急増したことに伴い、昭和46年に開校。次年度、開校50周年を迎える。校区内には、認定こども園や幼稚園、中学校、高等学校、そして函館聾学校があり、教育的な環境に恵まれた、落ち着いた地域に位置する。

2 地域とともにある学校を目指して

(1) コミュニティ・スクール スタート

本年度、本校はコミュニティ・スクール（以下、CS）としての歩みをスタートさせた。地域社会のつながりや支え合いの希薄化などの現代社会における課題は、高齢化や核家族化が進んでいる本校の校区についても例外ではない。地域の方々と学校教育の目標や構想を共有し、一体となって児童を見守り育む「地域とともにある学校づくり」を進めるため、以下の3点をCS推進の柱として設定した。

- ① 情報の積極的な発信と収集による教育活動への理解促進
- ② 子どもの成長とともに支える信頼関係の構築
- ③ 家庭、地域、外部機関との連携による教育活動の充実

(2) 活動の実際 ～リソースを生かす～

本校では、かねてから様々な場面で多くの地域の方々が教育活動を支えてくださっている。初年度は、これまで積み重ねてきた実践を土台としながら、学校と家庭、地域の方々や様々な団体等と協力し合い、地域全体で学びを展開する体制の構築を目指し、次のような取組を進めている。

① 読み聞かせ

27年目を迎える地域ボランティア「ぼんぼこ座」が、週2回朝と昼休みに、1年生を中心に絵本の読み聞かせを行っている。



② 体力づくり ～函館東部地区ふれあいスポーツクラブ～



近隣町会が中心となり、本校の体育館やグラウンドにおいて、子どもから大人まで世代間で交流しながら、体力作りやレクリエーションなどの運動を楽しんでいる。体ほぐしや、脳トレ、グラウンド・ゴルフやストラックアウト、輪投げなど、自分のペースで気軽に体を動かすことができる。

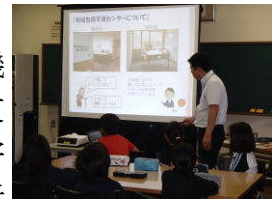
③ 町会の方々とともに

近隣町会には、日常の登下校の安全指導をはじめ、自動車学校と連携した交通安全教室、校区内清掃など、様々なご協力をいただいている。授業についても、昔の遊びや港踊りの名人としてご指導をお願いしている。また、今年度は、児童が港祭りのポスターを描き、踊りの会場や町内各所に掲示していただいた。



④ 地域とつながる授業

地域の方を講師としてお迎えし、授業の中で直接教えていただく機会を大切にしている。生活科のまち探検や社会科の見学学習、包括支援センターの協力による認知症サポーター学習と施設訪問でのお年寄りとの交流。クラブ活動では、生け花を教えていただいた。また、近隣の幼稚園やこども園の園児を招待して開催するおもちゃフェスティバルは、低学年にとって大切な学びの場となっている。発達の段階に合わせて地域と関わり合いながら、学びを深めていくことができるよう、教育課程の一層の工夫・改善を進めているところである。



⑤ 家庭学習の定着を目指して ～アフタースクール～

子どもたちに自分で学習する習慣を身に付けさせることを目指し、週1回放課後に「アフタースクール」を実施している。子どもたちは宿題をやったりドリルに取り組んだり、自分で勉強したいものを用意して参加する。地域の方が講師として温かく見守りながら、分からないときには考え方を教えてくれたり、ヒントを出してくれたたりし、子どもも安心して自分のペースで学習に取り組んでいる。

(3) みんなでもっと子どもの話を～ふかぼり深掘り～

6月末に、熟議第1回「ふかぼり深掘り」を開催した。保護者・地域の方、運営協議会の委員、そして学校の教職員がグループに分かれて、「ふかぼりの子どものよさ」「安全マップを見直そう」をテーマに話し合った。どのグループでも終始和やかに、それぞれの立場を越え、子どもを中心に据えてざっくばらんに話げできた。また、安全マップの点検では、これまで気づかなかった危険箇所についても交流でき、早速マップの作成を行っているPTAの担当に引き継いだ。参加者の声を一部紹介する。

<保護者>

- ・これまで挨拶程度の関係だった近所の方と話げできてよかった。
- ・先生方が上手に話を引き出して進めてくれて話しやすかった。
- ・異学年や、先輩のお母さんや地域の方の話も聞けてよかった。
- ・兄弟の学校のPTAでもやってみたい。



<地域>

- ・終了後、みんなもっと話したいという雰囲気があってよかった。
- ・みんな、こんなに子どもを見ていてくれていたんだということがわかった。
- ・楽しかった。地域の一員としてまた参加したい。
- ・普段、町会など近しい人と話していることを学校で話し、広く伝えることができ、よかった。これからもつながりをもちたい。

<教職員>

- ・安全マップにはない危険箇所も聞けて地域のことをより詳しく知ることができた。
- ・自分の担任以外の保護者とも話げでき、全校規模で学校を見つめ直し、「地域の方々から見る本校の子ども」を聞くよい機会だった。

3 おわりに

本校のCSは歩み始めたばかりである。保護者、地域、学校と立場は違っても、それぞれに子どもの学びに関わり、愛情を注ぐ方々と、今後も一層の連携と協力を進め、教育活動の充実に努めていきたい。